

1 伏見区の姿

1-1 伏見区全域の現状特性と課題

(1) 環境

●環境先進区としての伏見

- ・クリーンセンターや水環境保全センターなど環境関連施設が多く立地し、京都市の市民生活や産業活動の基盤を支える極めて重要な役割を担っている。一方、これら施設の近隣の生活環境の改善や施設との共生が課題となっている。
- ・京エコロジーセンターなど環境教育施設を中心に、環境啓発活動が活発に展開され、ごみ減量やリサイクル活動等が進展している。また、地域ぐるみの美化活動として、大岩山周辺の美化活動や河川レンジャー等の取組がおこなわれるなど、区民の環境意識が高まっている。
- ・京都市では、環境モデル都市としてらくなん進都（高度集積地区）、横大路地域における低炭素型まちづくりをめざしている。

(2) 魅力・個性（自然・歴史等）

●伏見独自の歴史・文化が育まれてきたまち

- ・人の営みとともに歴史の中で育まれてきた神社仏閣などをはじめとした歴史的資源が数多く点在している。なかでも醍醐寺は世界文化遺産に登録されており、周辺の丘陵の緑と相まって豊かな佇まいを見せている。
- ・旧市街地では、古くは城下町や街道筋、門前町として、まちが発展してきたことから、町家など歴史的な町並みが多く残るなど、特徴的な佇まいを見せている。
- ・また、伏見の水が育んだ地場産業ともいべき酒造業が宇治川派流付近に集積しており、酒蔵の町並みとともに、「伏見の酒」のイメージがまちの個性ともなっている。

●水（河川）と緑（丘陵）が広がる豊富な自然環境

- ・桂川、鴨川、宇治川の三川が合流する地域であり、高瀬川や疏水など人工河川がまちなかを流れている。これら多くの河川と豊富な地下水などにより、澄んだ「水」が伏見のイメージともなっている。
- ・桃山丘陵や稲荷山周辺、醍醐寺周辺には緑豊かな丘陵が広がり、市街地に近接した緑となっている。こうした水と緑の豊富な自然資源が身近にあるものの、まちなかの河川や街路、公園の緑など、より身近に水と緑に親しめる環境づくりが求められている。

(3) 活力（伏見力）

●多種・多彩な産業活動（伏見力）

- ・大手筋や街道筋の商店街などでは、これまで生活に密着した商業地域として区民の暮らしを支えてきたが、近年、郊外型の大規模商業施設等の立地や少子高齢化の進展による購買層の減少から活力の低下が懸念されており、活気を取り戻す努力が重ねられている。
- ・中心市街地の活性化に向けて、地域密着型の商業振興や地域と共存する観光との連携、らくなん進都との連携が模索されている。
- ・個人商店（地場商店）が減り、商店街の個性が失われつつある。
- ・らくなん進都（高度集積地区）では、「新しい京都を発信するものづくり拠点」をめざしている。

●都市近郊の農業

- ・桂川沿いや宇治川左岸の巨椋池干拓地には良好な田園が広がっているが、近年住宅地開発や都市基盤施設の整備などにより、取り巻く環境が変化しており、都市の身近な農地として市街地環境との共生が課題となっている。
- ・また、こうした近郊の農地では、伏見特産の農産物（畑菜、淀大根、九条ねぎ、たけのこ等）が生産されており、京野菜ブランドとして販売がおこなわれるなどの動きもある。

●観光客の受け入れ環境

- ・伏見区には、醍醐寺、伏見稲荷大社、御香宮などの数多くの社寺や、酒蔵、町家など歴史的町並みが残り、それらを訪れる観光客が増加しているが、広範囲に分布する地理的条件や交通利便性の問題、来訪者に対する案内の不足など、受け入れ環境の向上が課題となっている。
- ・観光資源のネットワーク化、情報発信力が不足している。

（４）地域福祉・コミュニティ

●地域活動と担い手

- ・新たな住宅地の形成やマンションの建設などにより新住民が増加している地域を中心に、自治会の加入率の低下が進んでいる。また、少子高齢化の進展による地域活動の担い手の減少などにより、地域活動の維持が困難になりつつある。
- ・また、地域の老若男女が気軽に集まれる場が不足している。
- ・一方、地域での高齢者や子どもを見守る取組が進みつつある。
- ・ニュータウンなどにおいては、独居老人などの高齢化問題や、中国帰国者の増加によるコミュニティ形成の困難さが課題となっている。

●地縁と志縁活動のつながり

- ・伏見区は、地域の団体やNPO等の活動が活発な地域でもある。しかし、これらの活動は地域での横の連携を欠き、単独の活動となっていることが多い現状がある。
- ・地域と各種団体、団体同士の相互の連携や交流の場づくりなど、ネットワークづくりが課題となっている。

●子育て環境

- ・共働き家庭や核家族化の進行により、子育て世代の孤立化が進んでいる。こうした世代に対する支援が必要になっている。

●隣接する区外地域への生活圏の広がり

- ・醍醐地域と山科区、向島地域と宇治市、久我・羽束師地域と長岡京市など、住民生活では区域を超えた広がりが見られる。

（５）安心安全・利便性

●交通の利便性

- ・鉄道交通網が桃山丘陵西部に集中しているが、鉄道駅から遠い地域やそれ以外の地域は、バス路線や運行本数の少ない地域であり、交通利便性に格差が見られる。
- ・また、伏見区内の東西方向の移動や、乙訓地域への移動についても、公共交通網等の脆弱さから、利便性の向上が求められており、これらの問題等の解消が課題となっている。

●安心・安全な暮らし

- ・駅周辺における駐輪場不足による放置自転車問題は、伏見区に限らず共通の問題となっている。これら放置自転車は、道路上の歩行者空間を狭くし、歩行者の安全を阻害する要因ともなっていることから、歩行者の安全な通行の確保が必要となっている。
- ・また、伏見区に特有の課題として、道路が狭くかつ交通量が多いという問題があり、生活道路への通過交通の流入の抑制や歩車分離が求められている。
- ・住宅などのミニ開発によるスプロール化が進行する地域においては、都市基盤整備など含め計画的なまちづくりが求められている。

1-2 地域別の現状特性と課題

(住民円卓会議での議論やアンケート等の意見などを踏まえ、地域毎のまちの特徴やまちの課題を整理)

(1) 旧伏見地域

まちの自慢や特徴

- ・城や御陵、社寺など、酒蔵や伝統的な町家が点在する歴史的な地域である。
- ・商店街がいくつもあり(大手筋、納屋町、竜馬通り商店街等)、利便性の高い地域である。
- ・幹線道路に近く、鉄道も複数とおり、駅が近く比較的便利である。
- ・子ども見守り活動など学校行事等に地域が協力的である。
- ・集会所等が多く、住民の結びつきが強い地域である。

まちの気になること(まちの課題など)

- ・桃山御陵や伝統的な町並みなど多くの資源があるが、連携しておらず、うまく活用されていない。
- ・マンションが増え、自治会加入率が低く、活動等の担い手不足もあり、自治会運営が困難になってきた。
- ・鉄道駅周辺的环境整備が行き届いていない。
- ・幹線道路の渋滞を避けて生活道路や通学路に通過交通が入り込んでいる。
- ・お年寄りが多く、高齢化が進行している。
- ・まちなかの緑が不足している。

(2) 下鳥羽・横大路・淀地域

まちの自慢や特徴

- ・歴史的な資源を訪れる観光客は多いが、競馬場のイメージが大きい地域である。
- ・府道京都守口線の両側の農地等は、住宅地と工業用地との緩衝地として大切な存在
- ・市域を超えて(八幡市、久御山町等)様々な人との交流がある
- ・高速道路へのアクセスがよいので、いろいろな地域との行き来がしやすい。
- ・河川レンジャーなど環境美化の取組が盛んである。
- ・京阪淀駅の高架化と周辺整備が行われている。

まちの気になること(まちの課題など)

- ・工場等の進出が多く、周辺的环境悪化が懸念される。
- ・土地区画整理事業等による適切な土地利用の誘導が必要である。
- ・阪急やJR等の駅を利用したいが、バス等公共交通のアクセスが悪く不便である。
- ・三川合流地点であるため、水害時に不安がある。
- ・子どもを安心して遊ばせることができる公園が少ない。

(3) 久我・羽東師地域

まちの自慢や特徴

- ・久我神社など歴史的資源が多く、それらを見に来る来訪者も多い地域である。
- ・田畑や河川があり緑が豊富な地域である。
- ・医療施設やスーパーなど生活関連施設が多いこともあり、子育てに適しており、新住民が増えている地域である。
- ・見守り隊ができてからPTAと地域の関係が良好になり、交流の機会が増えた。
- ・体振の取組やスポーツチームの活動が盛んな地域である。
- ・久我菜など伝統野菜があり、食育も盛んである。

まちの気になること(まちの課題など)

- ・地域で清掃活動がおこなわれているが、河川や農業用水路に不法投棄が絶えない。
- ・無秩序な住宅地開発で、農地やまちの景観が悪化している。
- ・バス路線や本数が少なく不便である。
- ・都市計画道路の整備促進や土地区画整理事業等による計画的な基盤整備が必要である。
- ・新住民の自治会加入率が低く、既存自治会との連携がない。

(4) 向島地域

まちの自慢や特徴

- ・向島城など地域の地名に歴史的な名残がある。
- ・宇治川に面しているなど、身近に豊かな自然が多い地域である。
- ・農業が盛んで、新鮮な「食」を得ることができる。
- ・自治会の取組に対する理解が高まってきており、結束も強い地域である。
- ・高齢者や障害者を見守るために、安心安全ネットの取組を実施している。

まちの気になること（まちの課題など）

- ・ニュータウンは30年を経て、建物が老朽化してきた。
- ・住民の高齢化が進み、若者が少なくなっている。
- ・外国籍居住者が多く、コミュニケーションが取れない。
- ・市バスの路線がなく、不便な地域である。
- ・道路が狭く、緊急車両が入れないところがある。

(5) 深草地域

まちの自慢や特徴

- ・稲荷山周辺の自然（竹林など）や疏水の水辺、多くの歴史的資源がまちを落ち着いた雰囲気にしてしている。
- ・鉄道が3線通り、駅が多くあり、利便性が高い地域である。
- ・医療センターや医療施設が多くあり、安心して暮らせる地域である。
- ・体振や見守り隊の活動など、学校を中心とした取組が盛んな地域である。
- ・3つの大学が立地し、大学と連携した取組がおこなわれている。

まちの気になること（まちの課題など）

- ・まちなかを流れる高瀬川や七瀬川を美しくする必要がある。
- ・安全に避難できる避難地の確保や住民への周知が必要である。
- ・駅周辺の放置自転車等が後を絶たない。
- ・交通量が多く安心して商店街で買物ができない。
- ・老人や地域の人たちが気軽に集まれる場所が少ない。
- ・東西の交通がスムーズでない。

(6) 醍醐地域

まちの自慢や特徴

- ・身近に自然が多く、住みやすい地域である。
- ・著名な寺院が多く、観光スポットがいくつかある。
- ・醍醐コミュニティバスや地下鉄東西線があり、交通の便がよい地域である。
- ・学校の教職員と地域の人たちがスポーツを通じて交流している。
- ・10校区の連携が強く、地域の取組など、ひとつになって取り組まれている。

まちの気になること（まちの課題など）

- ・川の生き物が少なくなるなど、身近な自然が減少している。
- ・各活動に対する協力者が不足している。
- ・通学路が長いところがあり、危険なところがある。
- ・公園が少なく子どもたちが安心して遊ぶ場所がない。
- ・団地などにおいて、高齢化が進行し、独居老人等の問題がある。

2 めざすまちづくりの将来像

□伏見区の将来像

一水と緑と温もりのまち

伏見で住みます・働きます・楽しみますー

■めざす伏見の10年後

山の緑、川の緑、田の緑と青い空が澄みわたり、

ゆるやかな川の水、豊かな地下水が澄み、

豊かな自然の中で、多様な植物や動物が棲む。

水と緑の温もりに包まれ、多様な歴史と文化、生活圏をもつまちに、
人々が元気に働き、交流し、住む。

暮らしの場と働く場がともにあり、生産、消費、廃棄が地域内で循環し、
いろんなことが区内で済む。

これからもずっとやさしく生き物を包み込み、美しく、多様な人々の
活動を見守る伏見のまちであることを願い、

「伏見ですむ」

10年後の伏見のまちを表します。

□伏見区のまちづくりの5つの取組目標

伏見区の将来像の実現に向けて、「伏見区全域」のまちづくりの取組目標と「地域別」の取組目標を設定しました。

伏見区全域のまちづくりの取組目標

「伏見ですむ」ことの思いを実現するまちづくりを進めます。

- (1) 「循環型社会の要を担うまち」伏見ですむ
- (2) 「自然と歴史がいきづく魅力を発信するまち」伏見ですむ
- (3) 「伏見力を活かし、新しい京都を創造するまち」伏見ですむ
- (4) 「地域のコミュニティ力が人を育み、すこやかな暮らしを支えるまち」伏見ですむ
- (5) 「安心安全で、人にやさしい便利なまち」伏見ですむ

地域別のまちづくりの取組目標

地域の特性を活かした「伏見ですむ」ことの思いを実現するまちづくりを進めます。

旧伏見地域	“みんなが見たい、聞きたい、話したい” 歴史が息づく元気なまち
下鳥羽・横大路・淀地域	私たちがつくる 美しい水と歴史が輝く みんなが集うまち
久我・羽東師地域	愛着をもって一生住める 緑豊かな 誰もが好きになれるまち
向島地域	“温もりとつながり”で支える 人にやさしい安心なまち
深草地域	自然と歴史がまちを包み、 まちが「ひと」を育む成熟のまち
醍醐地域	みんなで支えあい安心安全で、 イキイキと暮せるまち

3 「伏見ですむ」実現に向けたまちづくりの取組方針

3-1 伏見区全域の取組方針

(1) 「循環型社会の要を担うまち」伏見ですむ

環境にやさしい循環型社会の要を担うまちとして、「伏見ですむ」人や事業者、区役所が連携するとともに、「伏見ですむ」一人ひとりの環境負荷の低減に向けた想いや、身近な生活環境や自然環境を大切にしたいという思いを紡ぎ、地域に根ざしたエコライフスタイルを実践します。

① 私たちは循環型社会の要を担うまちとして、常にエコロジーを意識したライフスタイルの実践をめざします。

●エコライフスタイルを積極的に実践する地域づくり

循環型社会の要を担うまちとして、区民、事業者、区役所が連携しながら、環境負荷の低減するエコライフスタイルを実践します。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 省エネや公共交通の利用などの環境にやさしい暮らし方の推進（エココミュニティづくり）
- 環境にやさしいまちとして、積極的に取り組むまちづくり（リサイクル、再利用、廃油回収、古紙回収、ごみの分別など）
- 太陽光発電の奨励や河川への水力発電の導入
- エコカーの奨励
- 小学校等での環境教育

●公共交通機関の利用推進と利便性向上に向けた取組推進

脱「クルマ中心社会」をめざし、公共交通を利用するなど、できるところからマイカーに依存しないライフスタイルへの転換をめざします。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 公共交通機関等の利便性向上のための取組「積極的にバス（公共交通機関）に乗ろう」
- 伏見ならではの斬新な環境に配慮したLRTの導入
- 車社会からの意識転換（自家用車を減らす）

●環境関連施設と最先端の環境技術が融合したまちづくり

伏見区には、市民生活や産業活動の基盤を支える環境関連施設が集積しています。この立地を特色と考え、立地する地域との共生を図りつつ、環境先進区としての役割を果たしていきます。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 伏見ルネッサンスプランの推進
- 「環境」先進区としての独自性あるまちの創造
- エコ産業の育成

② 私たちはゴミのない美しいまちづくりをめざします。

●ごみのない美しいまちづくりに向けた住民参加型の取組の推進

環境負荷の低減に向けたエコライフスタイルを実践するひとつの取組として、ごみをできるだけ出さない 2R 型エコタウンづくり【2R=Reduce（リデュース：ごみの発生抑制）、Reuse（リユース：再利用）】や資源ごみのコミュニティ回収を推進します。

また、山林、河川への不法投棄対策などを強化するとともに、区民、事業者、区役所がパートナーシップで環境美化活動に取り組みます。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 河川や水路、山林への不法投棄の根絶に向けた取組と意識啓発
- 地域の誰もが参加できるまちの美化活動（門掃き、クリーンキャンペーン等）の取組
- 地域の中学校や高校の清掃活動への参加
- ゴミのポイ捨てをなくすためゴミ箱を設置
- 河川の美化活動（疏水など）
- まちの落書きを消す→地域のポスターなどを貼る
- ゴミステーション（しっかりした収集場所）を設置
- 地域住民によるパトロールを実施

③ 私たちは水（河川）、緑（里山）と共生するまちを次代に継承します。

●多様な動植物が生息する河川や里山等の自然環境の保全

宇治川や桂川の河川敷においては、野鳥など多様な動植物が生息する自然環境が今も残されています。また、醍醐地域の丘陵や桃山丘陵、稻荷山周辺においても里山の生態系などの保全と再生が求められています。

こうした都市近郊の豊かな自然を「伏見ですむ」人、事業者、行政のパートナーシップで保全、活用を図り、「伏見ですむ」環境と環境意識を次の世代に継承していきます。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- まちに身近な自然環境や生態系を学ぶ環境学習の機会づくり
- 気軽に散策を楽しむことができる散策路等ルート設定
- 河川や水路等の再生のための清掃や整備（七瀬川、疏水など）
- 桃山丘陵や稻荷山、深草の山里、緑豊かな醍醐を保全
- 水資源の保全や水質の向上
- 自然環境を保全しながら良好な地域環境の形成（桂川や農地など自然が残されているが、工業地域もあり雑然としている）

(2) 「自然と歴史がいきづく魅力を発信するまち」伏見ですむ

「伏見ですむ」人に寄りそって育まれてきた水と緑、先人たちの営みによって育まれてきた伏見区特有の歴史資源を次代に継承するために、「伏見ですむ」人がその魅力を発信し、豊かな地域資源を育み「伏見ですみ」ます。

① 私たちは地域の魅力を知り、育み、伝えます。

●歴史、自然資源、地域産業（酒造業等）を活用した伏見のPR

伏見区には悠久の歴史の中で育まれてきた神社仏閣などをはじめとした歴史的資源が数多く点在しており、なかでも醍醐寺は世界文化遺産に登録されています。また、伏見の水が育んだ地場産業である酒造業が宇治川派流付近に集積しています。

「伏見ですむ」人や事業者がこうした地域の魅力資源を次の世代に継承していくために、区内外に広くPRし、その魅力を伝えていきます。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 区民が地域歴史資源（町名の由来や桃山城、稲荷大社などの歴史等）を学ぶ場や機会づくり（大学や学校教育と連携した地域学習など）
- 地域の自然・歴史資源をつなぐマップの作成
- 地域の歴史資源や地域産業等の情報発信強化
- 歴史、自然資源を活用した伏見のPR
- 地域の歴史を若い人たちに伝える行事の実施

② 私たちは水と緑を活かしたまちづくり（「伏水」環境の保全、水辺環境などの活用）をめざします。

●アメニティを高める水辺環境づくり

かつて伏見は水運の拠点として栄えたまちで、今も河川や水路などの水辺環境は、市街地の景観に潤いを与えています。こうした水辺環境に対して、「伏見ですむ」人が親しみを感じ、訪れる人が快適に感じる水辺環境としていくための取組を「伏見ですむ」人、事業者、行政のパートナーシップにより進めます。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 水辺の散策路整備、ルート設定
- 桜など花木類の植栽による名所づくり（東高瀬川など）
- まちに身近な自然環境や生態系を学ぶ環境学習の機会づくり
- 身近な自然の保全と自然資源を活かした魅力的なまちづくり
- 河川沿いの空間を住民の憩いの場として活用（東高瀬川西側の車両通行禁止、桂川周辺の公園化など）

●まちなかの緑化など緑豊かな環境づくり

桃山丘陵や稲荷山周辺、醍醐寺周辺の丘陵の緑は、市街地に近接するように位置しています。こうしたまちに身近な自然を保全しつつ、隣接する丘陵地の自然環境と共生する緑豊かな市街地を形成していくために、「伏見ですむ」一人ひとりが、庭先や玄関口に花や緑を飾るなど、気軽に取組める緑化活動を支援し、緑豊かなまちとして「伏見ですむ」魅力を高めます。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 緑化技術など、だれもが気軽に学べる各種教室の開催
- 花いっぱいのもちづくりの取組
- まちに緑を増やすための街路樹等緑化促進
- 田園風景の保全
- 自然公園、市民公園などの整備
- 子どもが遊べる緑地空間の保全、創出
- 区画整理等による緑地や公園の確保

③ 私たちは地域の歴史を活かしたまちづくりをめざします。

●地域の歴史を活かしたまちづくりの推進

伏見区が有する神社仏閣等の史跡、伝統的祭りなど有形無形の歴史的文化財を保全し、次の世代に継承するとともに、観光や文化的活動の面から地域特有の資源として活用を図り、「伏見ですむ」まちの魅力を高めることをめざします。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 地域の歴史的資源の掘り起こしとその情報発信
- 地域活動に関する団体間の連携や情報発信の強化
- 伏見桃山城や淀城跡の有効活用
- 醍醐地域に点在する観光名所をコミュニティバスや地下鉄で巡るためのマップづくり
- 地域の歴史的資源を積極的に広報周知して観光地として売り込む
(実行委員会を立ち上げ、観光会社に働きかける)
- 淀城の再整備と淀水路の遊歩道整備
- 観光名所のPR

●歴史的な佇まいを残す町並みの保全・再生

伏見区には城下町や港町、門前町、酒蔵のまちなみなど、「伏見ですむ」人の営みや生業とともに育まれてきた歴史的な佇まいを残す個性的な町並みが残されています。こうした地域の個性豊かな町並みを知り、保全に努め、その魅力に磨きをかけることにより、「伏見ですむ」人が誇りに思うまちづくりをめざします。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 魅力的な佇まいを残す町並みの紹介等情報発信
- 看板や商品の道路へのはみ出しの規制及び駐輪場整備
- 電線地中化などによる良好な景観形成
- 南浜界わいの景観整備地区を他の地域にも拡大
- 歴史的建造物の保護や維持活動
- 酒蔵のまちなみを保全
- 酒蔵や京町家を活用したまちづくり

(3) 「伏見力を活かし、新しい京都を創造するまち」伏見ですむ

伏見の水が育んできた酒造業などの地場産業や都市農業をさらに元気にしていくとともに、「伏見ですむ」人と商店街や観光と連携することにより、活気あるまちを創造する「伏見ですみ」ます。

① 私たちは地場産業、商店街、観光が連携した地域密着型の産業を応援します。

●地域に密着した商業・商店街の振興

「伏見ですむ」人の買い物など、日常生活が地域内ですみ（済み）、働く所と住む所が近くにある、活気のある地域づくりの核として、気軽に立ち寄れる活気ある商店街づくりをめざします。また、地域で育まれてきた地場産業や観光と商店街の連携により、さらなるにぎわいと華やぎを感じさせるまちづくりをめざします。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 商業振興によるまちの活力の創造
- 大学との連携など、若者の力を活かした活性化の取組
- 競馬場との共存共栄、施設の更なる活用
- 酒造業や商店街、農業が連携した地域密着の取組の実施
- 伏見の歴史的資源を活用することによる地域経済の活性化
- 地元の商店街等の利用促進や地場商店の振興
- 商店街などの空き店舗を学校の販売学習の場として活用
- 高齢化社会に向け、近くで生活用品・食料品が手に入る環境の整備（アクセスの向上など）

② 私たちは地産地消のまちづくりをめざします。

●身近な都市型農業の振興

伏見区を京都市民の安心安全な食を支える地域としてPRします。そして、それらの農産物を地域で購入・消費できる仕組みづくりや、都市の貴重な緑を形成し、食育の場ともなる土地としての利用を図ることをめざし、「伏見ですむ」魅力の向上を図ります。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 都市的生活と農業の共生（地産地消、食育の推進、農業体験農園の開設など）
- 田園風景保全のための計画的開発
- 地域の農産物等の販売等による振興（朝市や直売所の販売 PR、スーパーなどに地元産農産物を置く、消費拡大のためのPR強化（イベント等でのPR）、レストラン等での活用）
- 農家の担い手支援
- 巨椋池干拓地の農業（農産物）をPR
- 特産物（ブランド）づくり
- 伏見の生産物を地産地消する流れの整備

③ 私たちは地域とのつながりを大切にした産業振興をめざします。

●地域との共存共栄や雇用の創出を大切にした内発型の産業振興

高度集積地区へ誘致される研究開発型企業と区内ものづくり企業や地場産業（酒造業等）との交流を支援し、より高い先端性を創造するまちづくりを進めます。また、企業の立地・操業にあたっては、雇用の創出や住環境への配慮など「伏見ですむ」人との良好な関係の構築を呼びかけます。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 異業種交流のための環境（場）づくり・支援
- らくなん進都（高度集積地区）のまちづくりの推進
- 適度な統一感のあるらくなん進都（高度集積地区）の景観・まちづくり
- 新規産業の誘致
- 伏見の酒のPR（販路拡大ではなく、日本酒の価値を上げる）
- 酒造業等地域産業の活性化

④ 私たちは伏見の多様な観光資源のネットワーク化を進め、多様な魅力のある観光をめざします。

●観光（地域）資源のネットワーク化と総合的な活用による観光振興

「伏見ですむ」人にとって大切な自然環境や豊富な歴史的資源のPRに努めるとともに、地場産業や商店街、地域の農業なども含めた地域資源のネットワーク化とその一元的な情報発信により、歩いて楽しむ周遊型、滞在型の「伏見ですむ（済む）」観光をめざします。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 京都伏見観光連携協議会等による一体的、継続的な観光振興の推進
- 観光情報の一元化（共有化）と発信力の強化
- 観光コースにおけるきめ細かな案内誘導等の整備（伏見稻荷大社や東福寺への道案内など）
- 地域の社寺や著名な歴史資源を連携し、魅力資源、施設のPR
- 地域の魅力資源の発掘・企画（例えば温泉の発掘、名産品の創出、疏水に舟を流すなど）
- 区や地域の魅力を紹介するマップ等のツールづくり
- 伏見稻荷から大岩山への観光ルートの整備
- 淀川下流域のまちとの広域的な連携による観光振興
- 鳥羽街道（鳥羽の作り道）のPR
- ウォーキングルートの設定、スタンプラリーの実施

●観光客の受け入れ環境の充実

「伏見ですむ」人のおもてなしの心の醸成により、再び訪れたいまちになる環境づくりを進めます。伏見を訪れるすべての人が、快適安全に観光できる環境を整えるとともに、歩いて楽しいまちになるよう、公共交通機関の充実や連携、パークアンドライドの拡大を図るなど、利便性の向上をめざします。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 区民が地域歴史資源を学ぶ場や機会づくり
- 駅等での観光案内の充実
- 観光客のための公共交通の利便性向上と交通整備（渋滞解消など）
- 歩きやすい観光のまちにする
- 観光情報の発信者を増やし、観光ボランティア等人材の充実
- 外国人観光客誘致のための英語看板等の設置
- 一般の人にもわかりやすい立札（案内・説明）の整備

(4) 「地域のコミュニティ力が人を育み、

すこやかな暮らしを支えるまち」伏見ですむ

だれもが「伏見ですみ」続けたいと思う、そんな気持ちを大切にされた地域コミュニティが人を育て、「伏見ですむ」人たちが、すこやかな暮らしのために支えあうことができる「伏見ですみ」ます。

① 私たちは地域のつながり「絆」を深め、まちづくりの担い手を育てていきます。

●地域コミュニティを支える交流の場づくりと新たな担い手育成

新たに形成された住宅地や新築マンションなどにおけるコミュニティ形成上の問題や地域活動への不参加・無関心層の増加、地域活動の担い手の高齢化などを踏まえて、「伏見ですむ」人が積極的に参加できる交流の場づくりを進めるとともに、地域活動を先導する担い手を育成することをめざします。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 地域住民の交流の場づくり、気軽に使用できる施設づくり
- 全員参加型の自治活動の推進（気軽に参加できる活動づくり）
- 地域活動のリーダーとなる担い手の育成
- 自治会加入促進、仕組みづくり
- 自治会活動の充実、活性化
- 住民主体の組織を維持継続するための体制づくり
- 老若男女が集まる様なまつりやイベントの開催
- 自治会等や社協などの横の連携の強化
- 子育ての終わった年代の活用、「となりのおばちゃん」の活動の活発化
- 地域住民が講師となった地域向けの教室の開催
- 誰もが参加できる校区のクラブづくり

② 私たちは市民活動を促進する環境を整えていきます。

●市民活動団体の連携促進と活動支援

多様化する地域活動ニーズに対応するため、地域活動の支援や地域サービスを提供する市民活動団体やボランティア等に対する支援をおこないます。

また、自治会や社会福祉協議会、自主防災会、体育振興会等の各種団体や、地域の大学やNPOなど様々な団体の交流・連携を促進するとともに、ニーズのある自治会などと知識やノウハウを持つ大学、NPOなどを橋渡しする環境づくりをおこないます。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 市民活動や地域活動の情報共有、横のつながりの場づくり
- 身近な地域活動の拠点づくり
- 各種団体の連携、大学と地域、小中高校と地域の連携促進
- 行政窓口（市政協力委員制度等）と自治会組織との連携強化
- 安心安全な暮らしを確保するための組織間連携強化
- 住民相互の“協働”の取組促進
- 行政が核となり、多くの住民や学生を巻き込むまちづくりの仕組みづくり
- 地域活動に対する助成

③ 私たちは地域の福祉力、教育力を高めていきます。

●高齢者や障害のある人を地域で支える仕組みづくり

高齢者や障害者が住みなれた地域で安心して生活できるようにするため、近隣住民や自治会、団体や行政が連携し、「伏見ですむ」者同士が気軽にお互いを支えあうことができる環境づくりを進め、地域の福祉力を高めることをめざします。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 災害時や緊急時の要援護者の避難支援を行うための情報・体制の充実
- 高齢者が身近な地域で活動できる場づくり（ボランティア活動やライフワーク支援）
- 福祉・医療施設の充実と福祉の担い手づくり
- ニュータウンの問題（高齢化に伴う問題など）への対処
- 地域で高齢者や要介護者を見守る仕組みづくり（自治会等によるヘルパー派遣、コミュニティビジネスのモデル試行など）、体制づくり
- 地域医療体制の強化
- 高齢者（特に独居老人）が気軽に集まって会話や食事ができる場所づくりとそれを支える人材づくり
- 高齢者と子どもたち、障がいのある人たちの交流（思いやりの心を育てる）
- 福祉のマップづくりで地域の支え合いを推進
- 声をかけあえることができる地域づくり

●地域ぐるみの健康増進の推進

「伏見ですむ」誰もが健康でいきいきと暮らせるようにするため、地域で住民が相互に支えあって健康づくりに取り組める環境づくりをおこないます。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 地域ぐるみで健康づくりができる場づくり
- 健康づくりのための散策ルート設定（途中に公園、休憩所などを整備）や気軽に参加できるイベント等の開催
- 保健所が中心となって、食育、健康づくりの場を提供
- 保健所による定期的な独居老人の訪問
- 高齢者の健康保持の為に施設づくり

●食文化の継承のための活動促進

地域で産出される農産品（京野菜）などの地場産品や旬の野菜を知り、活用に努め、地域の特色ある食文化や季節毎の食文化の継承を図るとともに、地域の食文化に関する技や知恵等の啓発・普及を進めることをめざします。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 地域の文化を伝えるための取組と交流
- 食育に係わる（子どもの育成・商業や農業に係わる）取組
- 食文化を利用した新商品の開発及び販売
- 家庭で味わえる食文化（簡単レシピの作成及び配布）
- 学校給食に地元産農産物を活用
- 旬のものを食する運動（栄養面でも優れている）

●子育て環境の充実、子どもを地域で支える仕組みづくり

家庭と学校、地域が協力して、安心して子どもを生き育てられる環境を整えます。

「伏見ですむ」子育ての仲間同士や地域の先輩（高齢者）との交流の場をつくるなど、経験と能力を活かしながら相互に支えられる関係を育てていきます。

また、子どもを預けて働ける環境づくりや子育てに悩みを抱える家庭を支えるための子育て応援のネットワークづくりをおこないます。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 子育てグループと地域の子育ての先輩たちとの交流の場づくり
- 子育て環境の充実，地域で支える仕組みづくり
- 子どもが体を動かして発散できる，自然が身近に感じられる空間づくり
- 誰もが集える公園や児童館の整備
- 地域における教育力を高めるための取組，支援
- 伏見区総合庁舎の区民交流スペースに子育て支援コーナーの設置（子どもの一時預かり，遊び場，親同士の交流，アドバイザー（保育士，栄養士，臨床心理士，子育てサポーター，食育サポーター）の配置と育成など）
- 乳幼児の健診と虐待などの充実した指導
- 夜間，休日診療を増やすため近くの小児科によるネットワークの形成
- 保育所の増設や学童保育の充実
- 子どもたちへの声かけの実践
- 地域と若いお母さんとの関わりをつくる（地域の先輩が祖父母的存在として手助け）
- こども未来館のような施設の設置
- 子供たち同士，母親同士で楽しめる空間づくり
- 若いお母さんたちが安心して働けるような環境づくり（子どもを預けるところを増やすなど）
- 小中一貫の学校，きれいな学校，塾に行かなくてもいい学校をつくる

④ 私たちは多文化共生・多世代交流を推進していきます。

●多文化共生社会の実現に向けた交流の促進

伏見区は外国籍市民や外国からの帰国者が多いものの，生活習慣の違いや日本語能力の不足から地域に溶け込めない人が多い現状があります。「伏見ですむ」一人ひとりが他文化に対する理解を深めるとともに，「伏見ですむ」外国籍市民や帰国者同士や留学生，民間団体などとの交流の場を設けるなど，生活情報等の共有のための環境づくりを進めます。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 多文化交流のための取組
- 若いときから異文化に触れ，多様性を身につける国際交流の場づくり
- 外国籍市民のマナー向上のための意識啓発

●多世代交流のまちづくりの推進

「伏見ですむ」大人や子ども，高齢者や障害がある人など，様々な人々が他人を思いやり，暮しやすい地域とするために，気軽に交流できるまちづくりを進めます。とりわけ，団地等においては，周辺地域も含めた世代間交流を図るとともに，地域の子どもが「伏見ですむ」続けられる環境づくりを進めます。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 子ども見守り活動の継続と挨拶運動の実施
- 地域の催事を活用した世代を超えた交流イベントの開催
- 若い人たちが参加しやすい地域活動（30代までが恒常的に集まれる場の設置など）の実施
- 情報の伝達や共有化を高めるためのIT力向上（ITスキルの向上がこれからの住民の安全，教育，交流に大きな力を発揮する）
- 年代の壁をつくらない，子どもから高齢者までともに交流できる地域づくり

●小学校等を核とした生涯学習や文化交流の推進

「伏見ですむ」人すべてが、こころ豊かな暮らしや生きがいのある暮らしができるように、地域のニーズに応じた学習の機会や学習の場など施設の充実を図ります。また、地域の小学校等の施設を活動の場として活用するなど、身近な場所での活動の場づくりを進めます。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 学校の施設を活用したサロンや教室等の開催
- 小学校の施設を活用（地域の歴史展示、エコ関連施設設置など）
- 文化を発信する施設（文化ホール、図書館）の整備
- 高齢者等の文化的、教育的なサークル等への参加促進
- 地元の高齢者による市民大学的なものを開設

●緑豊かな区民のスポーツやレクリエーションの場の整備

「伏見ですむ」人すべてが、スポーツやレクリエーションを通じて、健康でいきいきとした暮らしができるように、スポーツの振興とレクリエーションのための環境づくりを進めます。また、伏見区を拠点として活動するプロスポーツクラブ（ハンナリーズ等）との連携により、スポーツ教室の実施など、スポーツ振興の取組や人材育成等を進めます。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 体振の活動促進や地域スポーツクラブの振興
- 水垂処分地跡に多目的グラウンドの創設
- 身近な公園整備による潤いある生活環境づくり
- 自然に親しめお年寄りや子どもが安心して集える公園の設置
- 子どもたちが自由に遊べる野原づくり
- 地元住民の利用がしやすい運動公園、施設
- スポーツ施設の充実、無償の貸出し
- 若い人が盛り上げられるミュージックフェスなどを行い活性化

(5) 「安心安全で、人にやさしい便利なまち」伏見ですむ

「伏見ですむ」人の営みと暮らしを支える交通や道路が整い、安全で快適に住み続けられる人にやさしい便利なまち「伏見ですむ」ます。

① 私たちは安心安全に暮らせる環境づくりを進めていきます。

●地域ぐるみの交通安全、防犯対策の推進

「伏見ですむ」誰もが安心して歩けるまちづくりを進めるとともに、交通安全に係わる意識やマナーの向上を図ります。また、防犯に対する意識の向上を図りつつ、「伏見ですむ」人、事業者、市、警察等が一体となって治安を守り、安心して暮らせる取組を進めます。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 交通安全教室の実施などによる交通安全に係わる意識啓発
- 駐車・駐輪のマナー向上のための意識啓発
- だれもが安心して暮らせる治安の良いまちづくり
- 地域パトロールの活動
- 醍醐地域への大型交番の設置

●人にやさしいみち・施設の整備

歩行者が安全で快適に歩ける道とするために、生活道路に流入する通過交通の抑制を図るための幹線道路の整備や交通規制や歩車分離などとともに、歩行者の安全な通行を妨げる放置自転車の一掃に向けた取組を推進します。公共施設や公共交通施設についても安全性を高めるための施設環境の向上をめざします。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 駅周辺や道路上、商店街等の放置自転車対策の推進
- 駅周辺等における駐輪場の設置・改善
- 駐車違反や違法建築の取締り
- 都市計画道路などの幹線道路の整備推進
- 車いすの方や誰もが安全に通行できる歩道のバリアフリー化（段差解消など）
- 街灯を増やして、安全な歩行空間を確保
- 歩道の拡幅や歩車分離による歩きやすい道づくり
- 稲荷大社付近の道路の混雑解消
- 鉄道駅のバリアフリー化
- 商店街の自転車・バイクの放置取締りを定期実施
- 電線の地中化
- 老人や子供が安心して遊べる車が進入できない区域の設定

●防災対策の推進

災害に対して「伏見ですむ」人々がお互いに助け合うことを基本とした体制づくりを進めるとともに、治水機能の強化や建築物の耐震化による防災機能の強化を図ります。また、災害時の備えとして、避難生活や復旧作業を円滑に進めるため、平時における準備を進めるほか、災害時における「伏見ですむ」人、事業者、公共機関等との連携による協力体制づくりを進めます。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 地域ごとの防災マップ、避難マップ等の作成

- 防災訓練等への参加促進
- 河川や水路の防災対策の推進
- 災害時に備えた道路の拡幅
- 災害時に安全な場所に迅速に避難できるような標識等の整備
- 地震時のための建物の耐震強化

●安心安全に暮らせる住環境の整備

住宅等のミニ開発によるスプロール化が進行する地域やその周辺地域等について、安心・安全な暮らしを確保するため、道路などの都市基盤整備や、計画的な土地利用の誘導を図ります。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 土地区画整理事業の推進等による計画的な土地利用の誘導と道路などの公共施設の整備の推進
- 伏見ルネッサンスプランの具体化と実践
- 久我・羽束師地域の都市基盤整備
- 計画的な住宅地形成による、暮らしやすいまちづくり
- 京阪淀駅の高架化に伴う駅前の整備、商店街の整備、交通の整理等

② 私たちは人と環境にやさしい交通システムや移動方法の構築をめざします。

●東西方向の交通インフラの整備

区内および隣接市町との連携の強化を図ることにより、移動の円滑化や利便性の向上を図ります。また、都市計画道路等の早期整備に加え、公共交通機関の連絡強化をめざします。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 公共交通等の利用促進に向けた取組（地域の東西方向の移動手段を確保し利便性の向上）
- バス等の公共交通機関の路線拡充と連絡強化
- 駅の整備に伴う京阪淀駅から長岡方面（阪急電車やJRへの連絡）へのバスの運行（久御山方面へのバスルート）

●交通結節の強化と交通不便地域等におけるコミュニティ交通の導入の推進

鉄道駅等のターミナル機能の強化を図り、バス等公共交通機関とのネットワーク化を図り、区内外への交通アクセスを向上させることをめざします。また、公共交通の不便な地域において、地域の足の確保のための手段を検討します。

策定委員会、円卓会議、アンケートでの意見

- 交通不便地域における公共交通やコミュニティ交通などの充実（向島駅への市バスの乗り入れ、桂川周辺地域のバスの増便、藤城地域への公共交通機関（バス等）の整備など）
- 醍醐コミュニティバスの継続
- 駅の整備に伴う京阪淀駅から長岡方面（阪急電車やJRへの連絡）へのバスの運行（久御山方面へのバスルート）＜再掲＞
- 京都駅への直通バスの運行
- 高齢者の増加に備えたバス路線の充実（小型バスで本数増、大型タクシーの路線化、元気な高齢者活用による運営）
- 鉄道（JR、地下鉄、京阪、阪急）駅へのアクセス向上
- JRの複線化の推進と駅舎の整備
- 乗換の利便性向上（一日乗車券なしでも乗換が割引されるような仕組みなど）

3-2 地域別の取組方針

(1) 旧伏見地域

まちづくりの合言葉（案）

“みんなが見たい、聞きたい、話したい” 歴史が息づく元気なまち

円卓会議において考えられた合言葉案

- 「みんなが見たい、聞きたい、話したい、おもしろいまち伏見」
- 「めざめよ！伏見人” 歴史が息づくまち 京都南部の文化の発信地」
- 無題：どうやって担い手をつくるか

【取組方針】

●住民力の結集による活気あるまちづくり

- ・住民同士が交流できる場所づくり，体制づくり
（学校と地域が連携した組織づくり，）
- ・若い世代が参加しやすい機会づくり
（若い世代が担い手として参加しやすい機会づくり）
- ・歴史まちづくりを進める実行委員会づくり
（協議・企画の場，行動のための推進母体づくり）

●暮らしの中に息づく身近な自然や歴史・文化を活かしたまちづくり

- ・歴史資源・地域の魅力資源の観光ネットワーク
（地域の魅力資源・観光スポットなどのマップ，魅力資源や施設等の案内，観光コースづくり等）
- ・魅力的な水辺の環境づくり
（濠川，宇治川派流沿いの魅力向上，東高瀬川への桜等の植樹，歩行環境の向上）
- ・地域の歴史や観光資源を学び，伝える
（観光ボランティアガイドの育成など）

●多様な世代にアピールするまちづくり

- ・地域住民や事業者など，異世代・異業種間の交流ができる場づくり
（住民，事業者，大学生等も交えた情報交換・交流の場，地域プラットフォーム）
- ・若い世代（観光客）への情報発信
（地域の魅力紹介ツールづくり等・企画，情報発信）

同地域に関連したその他の意見

- ・伏見桃山城の有効活用 [P.10の再掲](#)
- ・酒蔵や町家を活かしたまちづくり [P.10の再掲](#)
- ・酒造業や商店街，農業が連携した地域密着の取組の実施 [P.11の再掲](#)
- ・らくなん進都（高度集積地区）のまちづくりの推進 [P.12の再掲](#)

ちょっと注目！

円卓会議でこんなことも考えました！！

- ・温泉発掘プロジェクト
- ・伏見の名物づくり

(2) 下鳥羽・横大路・淀地域

まちづくりの合言葉（案）

私たちがつくる 美しい水と歴史が輝く みんなが集うまち

円卓会議において考えられた合言葉案

- 「私たちがつくる美しい水と歴史のまち伏見」
- 「歴史輝く洛南のみんなが集う伏見の日」
- 無題：人づくり，人育てが大切

【取組方針】

●地域と人のつながりを大切にしたまちづくり

- ・地域の人たちが元気になるふれあい活動（イベント等）
（西部ふれあいプラザをさらに魅力的に，みんなが集まれる活動拠点（淀競馬場等の活用）づくり）
- ・ご近所つきあいや高齢者や子どもの見守り
- ・地域の安心・安全マップづくり
（地域住民の危機管理意識の向上等，防災・水防等マップづくり，）

●地域の歴史資源の豊かさをつなげるまちづくり

- ・地域の歴史を知り，学び，地域の魅力や愛着を育てる
（地域の歴史資源や旧街道筋を活かした回遊ルート設定，魅力資源マップづくり）
- ・地域の農産物（地場野菜）の活用
（近隣農地で栽培された地場野菜（淀大根，九条ねぎ）や加工品等の販売，朝市等の開催）

●水辺環境の豊かさを活かした憩いの場づくり

- ・堤防や河川敷，人に身近な水辺の美化，清掃活動
- ・水辺に植樹や花のある美しい憩いの場づくり

同地域に関連したその他の意見

- ・伏見ルネッサンスプランの推進 [P.7の再掲](#)
- ・淀城跡の有効活用 [P.10の再掲](#)
- ・淀城の再整備と淀水路の遊歩道整備 [P.10の再掲](#)
- ・競馬場との共存共栄，施設の更なる活用 [P.11の再掲](#)
- ・らくなん進都（高度集積地区）のまちづくりの推進 [P.12の再掲](#)
- ・鳥羽街道（鳥羽の作り道）のPR [P.12の再掲](#)
- ・水垂処分地跡に多目的グラウンドの創設 [P.16の再掲](#)
- ・土地区画整理事業の推進等による計画的な土地利用の誘導 [P.18の再掲](#)
- ・京阪淀駅の高架化に伴う駅前の整備，商店街の整備，交通の整備等 [P.18の再掲](#)
- ・バス等の公共交通機関の路線拡充と連絡強化 [P.18の再掲](#)
- ・駅の整備に伴う京阪淀駅から長岡方面へのバスの運行 [P.18の再掲](#)

(3) 久我・羽束師地域

まちづくりの合言葉（案）

愛着をもって一生住める 緑豊かな誰もが好きになれるまち

円卓会議において考えられた合言葉案

- 「緑豊かな愛着もてる一生住めるまち」
- 「羽ばたく久しく住める我がまち」
- 「私が好きになれるまち」

【取組方針】

●人とひとのつながりを大切にしたまちづくり

- ・住民同士が交流し憩える場づくり
（交流できる場所と機会づくり）
- ・地域全体で子どもたちの見守り
（見守り隊活動等の活動継続，若い世代の参加促進）
- ・地域と学校の連携を密にしたまちづくり
（学校運営協議会等の取組の進展）

●安全・安心で住まい続けられるまちづくり

- ・まちづくりビジョンの実践
（まちづくりビジョンに位置づけられた取組等の実践）
- ・安全・安心な暮らしができるまちづくりの促進
（地区計画，景観まちづくりのための協定づくりなど）
- ・住民の力が発揮できる，力を出し合える場や仕組みづくり
（協議会活動等の取組の促進）

●まちの身近な自然や歴史，文化をつなげるまちづくり

- ・地域の自然，農業を活かした体験型学習の取組
（地域の農家との連携による農作業体験，環境美化活動～身近な自然学習）
- ・美しい水辺環境や田園風景を守るための美化活動等の取組
（河川や水路，農地周辺の美化・清掃活動）

同地域に関連したその他の意見

- ・区画整理等による緑地や公園の確保 [P.10の再掲](#)
- ・都市的生活と農業の共生 [P.11の再掲](#)
- ・田園風景保全のための計画的開発 [P.11の再掲](#)
- ・都市計画道路などの幹線道路の整備推進 [P.17の再掲](#)
- ・土地区画整理事業の推進等による計画的な土地利用の誘導と道路などの公共施設の整備推進 [P.18の再掲](#)
- ・計画的な住宅地形成による暮らしやすいまちづくり [P.18の再掲](#)
- ・バス等の公共交通機関の路線拡充と連絡強化 [P.18の再掲](#)

ちょっと注目！

円卓会議でこんなことも考えました！！

- ・久我バレーの実現
- ・学問のまち

(4) 向島地域

まちづくりの合言葉（案）

“温もりとつながり”で支える 人にやさしい安心なまち

円卓会議において考えられた合言葉案

- 「高齢者・障がい者にも優しい安心なまち」
- 「温もりとつながりのまち向島」
- 「みんなで支える福祉の街向島」

【取組方針】

●お年寄りや障害者が元気に暮せるまちづくり

- ・ 障害者や高齢者などに関われる、情報共有ができる場づくり
（コミュニケーションの場所・交流できる場所と機会づくり）
- ・ お年寄り（独居者）や要介護者への声かけ、見守り等取組
（居住者等の情報共有や担い手づくり等体制づくり）
- ・ 身近な相談ができる場づくりや情報共有ができる体制づくり
（相談できる担い手など）

●豊かな暮らしを支える活発な交流のあるまちづくり

- ・ 多世代（親子、親同士、子供同士）が交流できる場づくり
（既存イベント（地藏盆などの祭りも含める）や関連イベント等の連携）
- ・ 高齢者が元気になる活動の場づくりや健康づくりの場づくり
（趣味、文芸講座等の開催、イベント等への参加による活躍の場づくり）

●まちの身近な自然や歴史、文化をつなげるまちづくり

- ・ 地域の農産物（地場野菜）の販売等、定期「市」の開催
（巨椋池や近隣農地で栽培された地場野菜や加工品等の朝市）
- ・ 自然等を身近に感じさせる魅力的な公園づくり
（近所の公園の維持管理、季節感の感じられる公園づくり）
- ・ 向島の古い町並み等歴史的な価値のアピール

同地域に関連したその他の意見

- ・ 巨椋池干拓地の農業（農産物）をPR [P.11の再掲](#)
- ・ バス等の公共交通機関の路線拡充と連絡強化 [P.18の再掲](#)

(5) 深草地域

まちづくりの合言葉（案）

自然と歴史がまちを包み、まちが「ひと」を育む成熟のまち

【取組方針】

●「地域」と「ひと」のつながりが実感できるまちづくり

- ・安全安心のまちづくり
（災害・防災・交通問題：高齢者の実態把握，空家問題，通学路・散策路・駅までの道路に係わる公共交通問題等）
- ・地域活動の横のつながりをつくる交流の場づくり
（地縁組織や関係団体等によるプラットフォーム（気軽に交流できる場）づくり）
- ・3大学の集積の活用
（地域との交流促進，学生の地域活動への参加など）

●本町通界隈のにぎわいが見えるまちづくり

- ・商店街との共生～まちの縁側商店街づくり
（買い物ついでの井戸端会議，稲荷周辺の町並み景観づくりなど）
- ・疏水沿いの水辺環境づくり
（一軒一花活動など）
- ・歩きやすい本町通の環境づくり
（道路利用マナーの徹底など）

●自然・歴史・環境の豊かさを享受できるまちづくり

- ・深草トレイルの充実
（稲荷山～大岩山～桃山）
- ・みんなで里山づくり
（竹林再生，不法投棄対策など）
- ・ふかくさ市の定着
（地産地消，食育，農産物のブランド化など）
- ・大岩街道周辺地域のまちづくり
（まちづくり方針の具体化）

同地域に関連したその他の意見

- ・河川や水路等の再生のための清掃や整備（七瀬川，疏水など） P.8の再掲
- ・駅周辺等における駐輪場の設置・改善 P.17の再掲
- ・稲荷大社付近の道路の混雑解消 P.17の再掲
- ・藤城地域への公共交通機関（バス等）の整備 P.18の再掲

(6) 醍醐地域

まちづくりの合言葉（案）

みんなで支えあい安心安全で、イキイキと暮せるまち

円卓会議における協議テーマと合言葉

- 地域で支えあう福祉：「支えあう世代間の交流の場・次の世代の後継者づくり」
- 安心・安全なくらし：「つくろうイキイキ高齢者 みんなで参加みまもり隊」
- みんなで取り組むエコと美化：「取り戻そう ホタル飛ぶ山科川」
- 観光・コミバス：キラキラ醍醐・コミバスを通じて醍醐の活性化を図る
- 地域コミュニティ：希望と期待が満ちあふれる醍醐

【取組方針】

●安心安全な暮らしを支えあう コミュニティを大切にしまちづくり

- ・お年寄りや若手等誰もが交流し憩える場づくり
（気軽に交流できる場所づくり）
- ・地域とPTA 活動との連携による仕組みづくり
（楽しみながら参加できる活動の場づくり，次の世代への後継者育成）
- ・地域で支える子どもたちの見守り
（見守り隊の増員や活動の継続）

●コミュニティバスを活かして地域の活性化につなげるまちづくり

- ・他地域や地域内の観光施設や資源をコミュニティバスで結ぶ観光ネットワーク化
（醍醐～他地域とのネットワーク，路線ルートの拡充等）
- ・醍醐の歴史資源を結ぶ散策路等ルート設定
（醍醐の魅力的な歴史的資源をネットワーク）
- ・地域の魅力資源やバスルート等のマップ作成
（地域の魅力資源の紹介，コミュニティバスの利用促進）

●身近な自然や環境を大切にしまちづくり

- ・美しい水辺環境を守るための美化活動等の取組
（山科川の水辺環境美化活動）
- ・河川をきれいにして生物が棲める環境再生
（水をきれいにしてホタルの棲める川にする，野鳥が棲む場所など）

同地域に関連したその他の意見

- ・醍醐地域に点在する観光名所をコミュニティバスや地下鉄で巡るためのマップづくり
P.10の再掲
- ・醍醐地域への大型交番の設置 P.17の再掲
- ・醍醐コミュニティバスの継続 P.18の再掲